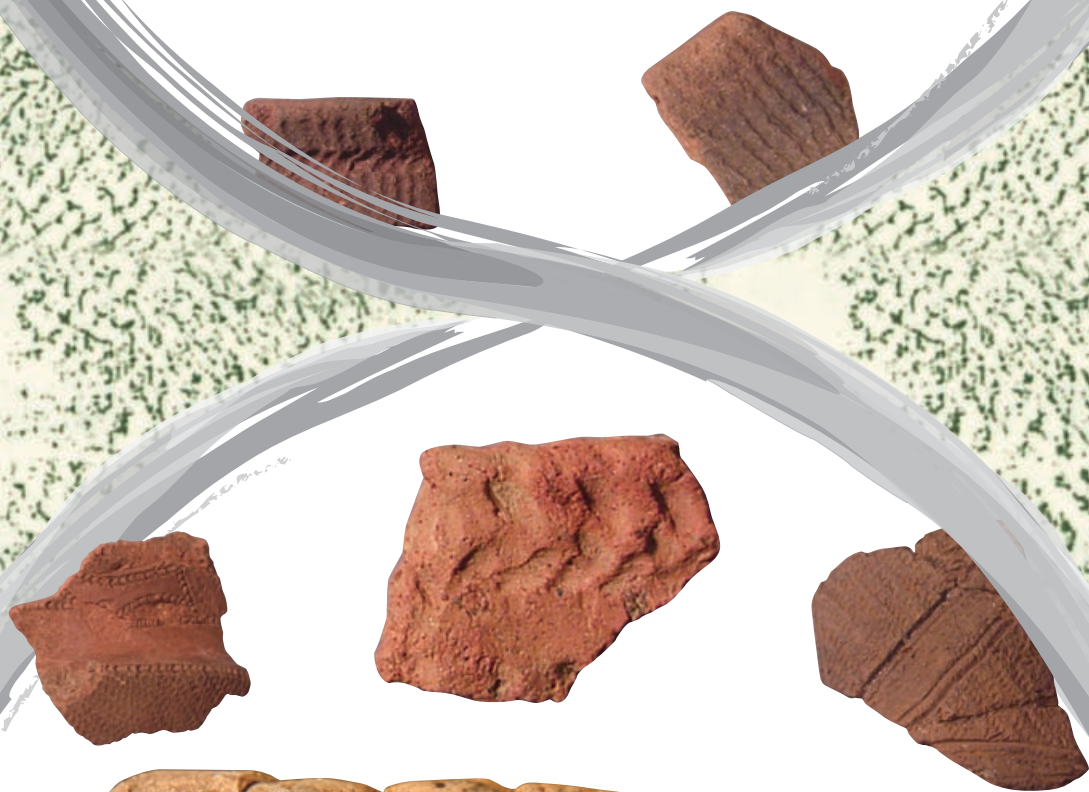


平成19年度企画展図録

# 縄紋多種彩々

土器を飾るパターン

2008年 **1/6** (日) ~ **3/23** (日)



富士見市立水子貝塚資料館

## 開催にあたって

富士見市には、水子貝塚や打越遺跡など、縄文時代前期の貝塚が多く残されています。この縄文時代前期は、土器の模様としての「縄紋」に様々な工夫が凝らされた時期です。

市内では、およそ1万3千年前から、古墳が作られ始める3世紀ころまで、すなわち「縄紋」の始まりから終わりまでの土器も発見されています。

この展示では、市内出土品を中心に、日本の先史土器を特徴付ける「縄紋」の多様な姿を紹介します。

平成20年1月6日

富士見市立水子貝塚資料館

### 企画展データ

会期 平成20年1月6日（日）～平成20年3月23日（日）

会場 富士見市立水子貝塚資料館展示室

#### 会期中事業

ふじみ考古学教室（全5回）

1/27（日）「右巻き？左巻き？－縄紋入門－」早坂廣人（当館）

2/09（土）「縄紋を極める－縄文前期の縄紋－」黒坂禎二氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

2/23（土）「南と北から見た縄文土器の範囲と境界」伊藤慎二氏（國學院大学）

3/02（日）「弥生土器の縄文－東の弥生と続縄文－」石川日出志氏（明治大学）

3/15（土）「“縄紋博士”山内清男の仕事」大村裕氏（下総考古学研究会）

#### 縄文の森コンサート

2/24（日）“オカリナ演奏”岡崎裕子氏ほか

#### 縄紋体験

期間内土・日・祝日 縄紋原体作り、拓本、縄紋土版、麻ひも細工など

## 目次

開催にあたって・企画展データ

目次・例言・展示協力者

1 縄・らせん・うず……………	2
2 縄紋いろいろ……………	4
3 縄紋の、ようなもの……………	9
4 縄紋の始まりと終り……………	10
5 縄を解いた人々……………	15

展示資料一覧・参考文献

コラム「縄紋」と「縄文」について

## 例言

1. 本書は、平成 20 年 1 月 6 日～平成 20 年 3 月 23 日を会期として開催する平成 19 年度企画展「縄紋多種彩々」の解説図録です。
2. 富士見市出土資料を中心に、取り上げたテーマに関する現状の知見をまとめました。
3. 本書と展示の構成は必ずしも一致していません。
4. この展示で「この地域」とは、富士見市とその近隣を指します。
5. 縄紋原体の解説は、この地域に出土例があるものに絞り込みました。
6. 本文中の敬称は省略しました。
7. 展示構成・図録の執筆は早坂廣人が担当し、荒井幹夫、隈本健介が協力しました。
8. ジョウモンの漢字表記には様々な意見がありますが、今回の企画展では模様を指す場合に「縄紋」、時代名に「縄文」を用いました（くわしくは裏表紙）。なお、考古学教室の演題については各講師の意向を尊重しています。

### ■展示協力者（敬称略）

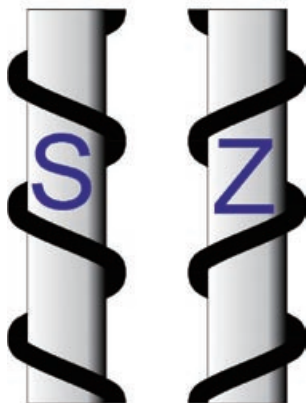
石川日出志・伊藤慎二・大村裕・黒坂禎二・関口正幸・渡辺千尋・理容ジョージ・小田原市教育委員会・滑川町教育委員会・熊谷气象台・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・富士見市教育委員会・難波田城資料館・水子貝塚資料館市民学芸員

# 1 縄・らせん・うず

縄は「<sup>な</sup>縄<sup>よ</sup>う」という動詞と兄弟語で、2本以上の材料を撚り合わせて作るもののうち、ある程度（厳密な基準はありません）の太さのものをさします。縄に似たものを探すと、綱、<sup>ひも</sup>紐、糸、帯などがあげられます。綱は縄より太いものを指すことが多く、製法は同じです。紐や糸は、おおむね縄より細いものをさし、撚り合わせ以外の製法のものも含まれます（組紐、裂き紐、生糸など）。<sup>こより</sup>紙縴は撚るだけで、合わせません。

縄やその仲間は、素材がらせん形にからみ合っています。それを気にしていると、世の中にはらせん形があふれていることに気がきます。

ここで用語を確かめます。らせんの巻く向きは2つに分けられますが、左巻き・右巻きという言葉でどちらの巻き方を指すかは、分野によって（らせんの見方によって）異なります。らせんを縦に置いたとき、こちらに見える線が左上がりのもの



をS巻き（S撚り）と呼び、右上がりのものをZ巻き（Z撚り）と呼ぶと、まぎれがありません。それを基礎的な用語として解説を進めます。

市販の糸は通常、単糸の場合にZ撚り、単糸を撚り合わせた双糸がS撚りです。

日本のわら縄はS撚りが普通でした（縄ない作業を上から見て右縄と呼びます）。井戸縄などの太い縄はそれを数本Z方向に撚り合わせます。



わら縄と井戸縄

神社の<sup>しめなわ</sup>注連縄はZ撚りが多く、相撲の横綱もZ撚りです。



ほねお 羽根尾貝塚出土縄紐

縄文時代の<sup>なわひも</sup>縄紐は福井県鳥浜貝塚などで発見され、多くがZ撚り（R）です。水子貝塚と近い年代の小田原市羽根尾貝塚の縄紐もZ撚りです。



フジ（左）とアサガオ（右）

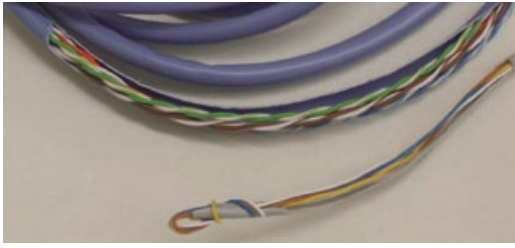
つる植物は、種類ごとに特定の方向に巻きます。S巻きの植物の代表例はフジ、Z巻きの代表例はアケビやアサガオです。どちらの巻き方を左巻きと呼ぶかは専門書でも一定しません。Z巻きのつるの生長を、らせん階段を昇るつもりで見ると上から見る人は左巻き、離れて横から見る人は、右上へ伸びていくから右巻きと呼ぶようです。

じつは普通の樹木や草花も、枝葉が出る部分をたどるとらせん形です。

生命の基本物質のDNAもらせん構造で、通常はZ巻きです。そしてこの糸状の分子はタンパク質に巻き付き、さらにそれが巻いてという“超らせん構造”で細胞核に収まっています。

DNA分子模型（ワトソン他2005）





上：LAN ケーブル 下：屋内用電話線

現代社会を支えるネットワークケーブルも、技術的理由で Twisted pair cable (撚り対線) です。

ネジもらせんの一種です。締めるときの回転方向で呼びますから、「右ネジ」の溝はZ巻きです。



理髪店のサインポール

床屋さんのサインポール (有平棒<sup>あるへいぼう</sup>) は、国内では通常Z巻きです。

巻貝は、Z巻きの種類がほとんどです。尖った部分を上にして、上からみると右回りに成長するので右巻きと呼ばれています。ある種のカタツムリは逆巻きなので、ヒダリマキマイマイと名づけられています。

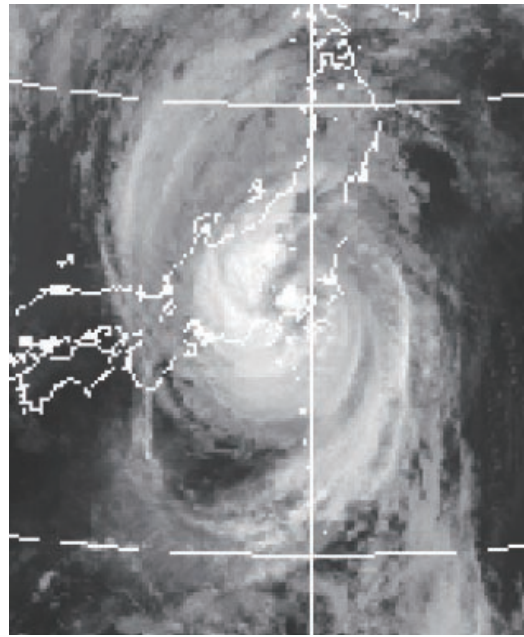


水子貝塚出土の巻貝

螺旋<sup>らせん</sup>の「螺」は巻貝のことですが、巻貝は上から見ると渦巻きとしての性質も合わせ持ちます。



らせんの上下を替えても巻きは同じですが、渦は見る方向によって向きが変わります。上から見た形によって6形とe形と呼んでみます。



2007.09.07 AM3 台風9号 (熊谷気象台提供)

台風などの低気圧は6形で、中心に近づくように風が吹くので左回りです (南半球では逆向きです)。鳴門の渦潮はe形です。



各社の蚊取り線香

蚊取り線香は鶏の絵で親しまれるD社のみe形で、他社は6形です。D社は自社製品を左回りと呼びますが、消費者からみれば右回りです。

「つむじが左巻き」という言葉は悪口に使われます。でもどの向きが左巻き？ 毛の伸びる方向です。昭和7年に書かれた「旋毛<sup>つむじ</sup>」という随筆によると、ドイツ人は右巻き (6形) と左巻き (e形) が4対1の割合であるのに対し、日本人は長野で9対5、長崎で5対4という比率です。遺伝子に換算すると、劣性である左巻き遺伝子の方が多くなります。著者は山内清男という人類学者。随筆をこのように締めくくります「以前、人類学会の会員の頭の寸法が測定されたことがあったが、旋毛曲がりの程度に関しては未だ調査されていない。重要な点が見逃されて居たのである」

## 2 縄文いろいろ

### 2-1 縄紋の基礎

縄紋という言葉には広狭さまざまな意味があります。文化名や時代名としての用法はさておき、土器の装飾としての縄紋にも次のような意味の広がりがあります。

a. 撚り合わせた縄紐の回転圧痕

b. a 以外の、縄紐を材料とする施紋具（絡条体、組紐、結縄など）の回転圧痕

c. a, b の施紋具の回転以外の圧痕（後述除く）

以下、各種の縄紋を紹介する前に、基礎用語を説明しておきます。

縄紋のための縄紐の素材はアカソやカラムシ、フジなど植物質繊維が多かったようです。まれに帯状素材や、つる・皮紐のような繊維の見えない素材も使っています。繊維束や帯状素材はあらかじめ撚っておいた場合も多いでしょう。



カラムシの繊維

撚り合わせとは、2本（または2束）以上の材料に撚りをかけ、逆向きに絡み合わせることで、撚り合わせを重ねた回数を“段”という単位で数えます。撚り合わせ前の素材は0段です。

撚りのかかった材料は、撚りを強める方向に撚ってから合わせて逆にひねると、しっかりした縄が出来ます。「正」の撚り合わせといます。通常は正の撚り合わせを重ねます。ほとんどの縄紋が2段で、最高4段まで発見されています。



0段から4段まで

縄紋の施紋具（原体と呼びます）はZ巻きの撚りをR、S巻きをLと記号化する決まりです。1段の縄はRかLです。圧痕に0段の撚りが見える場合rやlと呼び、見えない場合はoと呼びます。

ほとんどの縄紋には、溝状の「条」と条の中の粒々である「節」があります。

### 2-2 縄の回転圧痕

1段の縄、RやLの回転圧痕は、条の中に節が無いので「無節」と呼びます。



1段の縄 (L) と無節縄紋

2段の正の縄、LRやRLの回転圧痕は、条の中に単純な節があるので「単節」と呼び、3段の場合は「複節」、4段は「複々節」と呼びます。このうち、単節が最も基本的な縄紋で、少数の型式をのぞき、縄紋の主体を占めます。ただし、撚りの方向は、時期によって変化します。



正撚り2段の縄 (RL) と単節縄紋



正撚り2段の縄 (LR) と単節縄紋



正撚り3段の縄 (LRL) と複節縄紋

条の幅に比べて節が細く詰まっている場合があります。0段の材料を3本以上撚り合わせた0段多条です。0段3条は日常生活の縄にも多用され、縄紋土器では前期に多用されます。0段6条までの事例が指摘されていますが、圧痕のみから条数を特定することは容易ではありません。

材料の条を、撚りを弱める方向に撚ると、0段の素材は撚りの無い状態になり、合わせられません。1段以上の材料ならば、その前段の撚りの力で合わせることができます。「反」の撚り合わせといいます。完全に撚り戻すと4条を撚り合わせたものと区別できませんが、撚り戻しが不完全な場合は独特の圧痕になります。



反撚り2段の縄 (LL) と無節風の縄紋



0段3条2段正撚りの縄 (RL<sup>3</sup>) と単節縄紋

また、撚りが逆向きの縄を撚り合わせることがあります。合撚り、あるいは哲学用語をもじって「正反の合」と呼びます。圧痕は、異なる撚りの条が規則的に繰り返すことから「異条」と呼びます。それをさらに撚ると同じ条の中に向きの異なる節が繰り返す「異節」になりますが、出土例のほとんどは条が不明瞭で、後でふれる組縄の所産のようです。



0段2条から0段6条まで

最後に3本合わせた場合は、直前段3条と呼ばれます。2本で撚ってから割り込ませたりします。後述の附加条とまぎらわしい場合があります。



合撚り3段の縄 (L|RL,LR|) と異条縄紋



2段正撚り直前段3条の縄 (R3L) と単節縄紋



2段目合撚り3段の縄 (LR |L,R|) と異節縄紋

広義の異条縄紋には、異なる段の縄を合わせた「異段」や、「附加条」を含みます。

附加条とは、軸となる縄に別の縄を巻き付けたものです。軸縄に撚りを加えない点で他と区別されます。軸縄の条に沿うように巻く1種（順巻き）、その逆の2種、順逆両方に巻く3種に分けられます。3種の特殊な例として、交互に巻いていくものもあります。附加する縄の撚りの方向と巻きの関係によっても多様性が生じます。



2段の軸に1段を順巻き（附加縄には「正」方向）



1段の軸に1段を逆巻き（附加縄には「反」方向）



1段の軸に0段を逆巻きしてから順巻き



1段の軸に0段2本を交互に巻き付け

## 2-3 縄の部分的変化と結合

縄を撚ってその終りの部分（開端，末端）を結び、使用中にほぐれません。結び目を「結節」と呼びます。その回転圧痕を見た目でS形とZ形に分けます。R撚り（Z撚り）の延長で素直に片結びにした場合はS形の圧痕になります。



R3Lのうち1本の条で末端を結ぶ

撚り合わせようとする条に過度の撚りを加えると環ができます。圧痕をループ紋とも呼びます。折り目（閉端）に作る事がほとんどです。



閉端環付のRL

2本の縄（普通は異なる撚り）を閉端で絡ませてつなげて1本の原体とすることがあります。「結束」と呼び、2種類の方法があります。



結束1種による羽状縄紋



結束2種による回転圧痕



## 2-4 縄や条を材料にした原体の回転圧痕

末端処理ではなく、結節（結び目）そのものが主役となる場合があります。縄または0段の条を1本または複数本結んで、各種の結節を作ります。生活で身につけた技術の応用です。単なるパターンというより曲線的文様の大量生産に見えます。

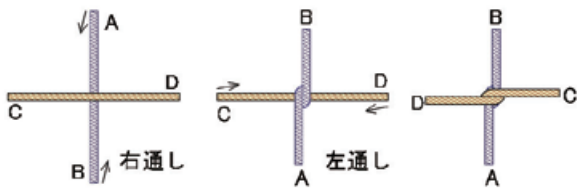


二重片結び。S字の中に条が詰まります



8の字結び。結束2種と似た圧痕

撚りではなく、縄（条）を3本以上規則的に交叉させるのが組紐です。北海道では平組紐（いわゆる三つ編み）の圧痕がありますが、関東地方では、4本を使った丸組紐が回転施紋に使用されるのみです。2本の材料を十字に置き、右通しと左通しを交互にくり返します。



4本組紐の組み方（基本）



Rを右通し、Lを左通し（RRLL）

組紐と同じように縄（条）を置き、同方向だけの通しをくり返すと、撚りを2回施したような結果になります。「組違い」「組縄」など呼びます。2段以上の縄と類似した圧痕ですが、撚りがかかっていないので条や節が不明瞭です。



RとLの右通しのみによる組縄  
異節縄紋 RL(RL) に類似する

土器研究の初期のころから、1本ごとの圧痕が離れている「撚糸紋」は、条が密接する縄紋（または「蓆紋」）と区別されていました。これは軸に縄（条）を巻いた施紋具（絡条体）の回転圧痕です。巻き方向と条の撚りのほか、軸の硬軟、軸の太さ、巻く角度や密度による多様性があります。

縄を軸としたと推定される撚糸文もありますが、軸縄の（意図的な）圧痕の有無で附加条と区別されます。1段の縄を巻く場合がほとんどです。



Rをやや疎らにZ巻きした絡条体による撚糸紋



RをZ→S巻きした絡条体による網目状撚糸紋

## 2-5 縄・条を使用した原体の回転以外の圧痕

縄の側面をそのまま押しつけた線状の装飾は、世界各地の先史土器に認められます。日本では、回転縄紋ほど普遍的ではありませんが、いくつかの型式に認められます。



撚糸側面圧痕

絡条体の圧痕も世界各地の先史土器に認められます。日本でもいくつかの型式に認められ、0段の条を巻くことが珍しくありません。



Lをしごいた繩軸絡条体と圧痕

## 2-6 縄紋・絡条体の回転方向

縄など柔軟な原体は横方向、絡条体（撚糸紋）は縦方向に転がすのが普通です。撚糸紋が多い型式では縄紋も縦転がしになる傾向があり、条が縦向きになるよう斜めに転がしたりもします。



横転縄紋 縦転撚糸紋  
縦転縄紋 斜転縦条縄紋

## 2-7 縄紋を活用した装飾

最終的な撚りが異なる2種の原体による回転圧痕を並べると、条の示す平行線が羽状（横羽状、縦羽状）や菱形状になります。一つの原体でも、部分的に回転方向を変えると羽状になります。



RLとLRによる菱状構成



RLのみによる羽状縄紋

縄紋の有無によるコントラストで文様を表現する手法があります。磨消による場合と充填による場合があります。画線内縄紋と総称します。



左：磨消縄紋。縄紋の方向が揃っています  
右：充填縄紋。文様の方向に転がしています

表面が柔らかい状態で縄紋をつけると、原体に押しやられた粘土がミミズ腫れ状になります。それを模様として活用することがあります。



粘土皺寄せ

### 3 縄紋の、ようなもの

土器に模様を付ける様々な工夫の中には縄紋とまぎらわしいものがあります。縄紋を真似た場合や、逆に縄紋が他の模様を真似た場合があります。

押しがたもん  
押し型紋は丸い棒に縄を巻き付けるのではなく模様を彫り込みます。山形の押し型紋は、関東で撚糸紋が流行っている頃、中部地方で作られました。



押し型紋土器 (北通遺跡)

ハイガイの貝殻の背面の圧痕は、条と節があり、縄紋に似ています。



貝殻背圧痕紋土器 (打越遺跡)

細い単節の縄を向きを細かく変えながら転がすと、貝殻背圧痕紋と似た外見になります。



貝殻背圧痕紋に類似する縄紋 (水子貝塚)

貝殻の腹縁を丁寧<sup>ふくえん</sup>に並べると撚糸紋のようです。



貝殻腹縁紋土器 (南通遺跡)

先端を斜めに切った細いヘラ状の施紋具で、刺突と線引きをくり返すと縄の側面圧痕のようです。



阿玉台式土器 (八ヶ上遺跡)

縄文中期中頃～後葉の西関東には撚糸紋が多用されますが櫛状工具による条線もあります。条線の中には小刻みに震わせるものもあります。



条線を地紋とする連弧文土器 (中沢遺跡)



撚糸紋と地紋とする連弧文土器 (中沢遺跡)

古代の瓦は凸面に縄目のついたものがしばしばです。縄を巻いた「叩き板」による「叩き調整」の痕跡です。昔は縄紋と混同されたこともありますが、技術的にも系統的にも無関係で、中国に起原する技法です。主にLの縄が用いられます。



瓦の縄目叩き (栗谷ツ遺跡)

## 4 縄紋の始まりと終り

### 4-1 縄紋の時空分布

世界各地の先史土器に縄の圧痕が見いだされています。それらは技術的にも系統的にもバラバラで、共通の起原を持ちません。

縄の側面圧痕は多くの地域に見られます。それらは刺突列の代替として出現した例が多いようです。縄目叩きは、中国南部を中心に広がっています。日本では「じょうせきもん縄席紋」と呼んで縄紋と区別していますが、中国語圏では単に縄紋と呼ぶことが多く、同類と誤解しないように要注意です。

回転手法による縄紋や撚糸紋が発見されているのは、アフリカ大陸と東北アジアに限られます。東北アジアの中では大陸（シベリア）と日本列島に分布しますが、同系統かは不明です。

日本列島の土器に縄紋を付ける習慣が始まるのは縄文時代草創期中頃（約13000年前）です（それより前にも縄の痕跡と疑われている例はあります）。押圧の手法と回転の手法がほぼ同時に出現し、様々な押圧の手法を試した後、回転施紋の盛行期を迎えます。

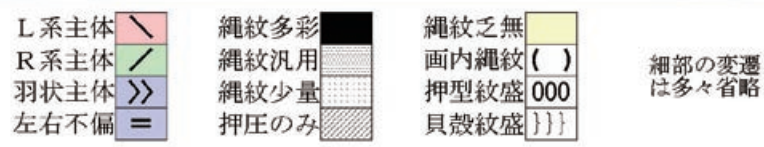
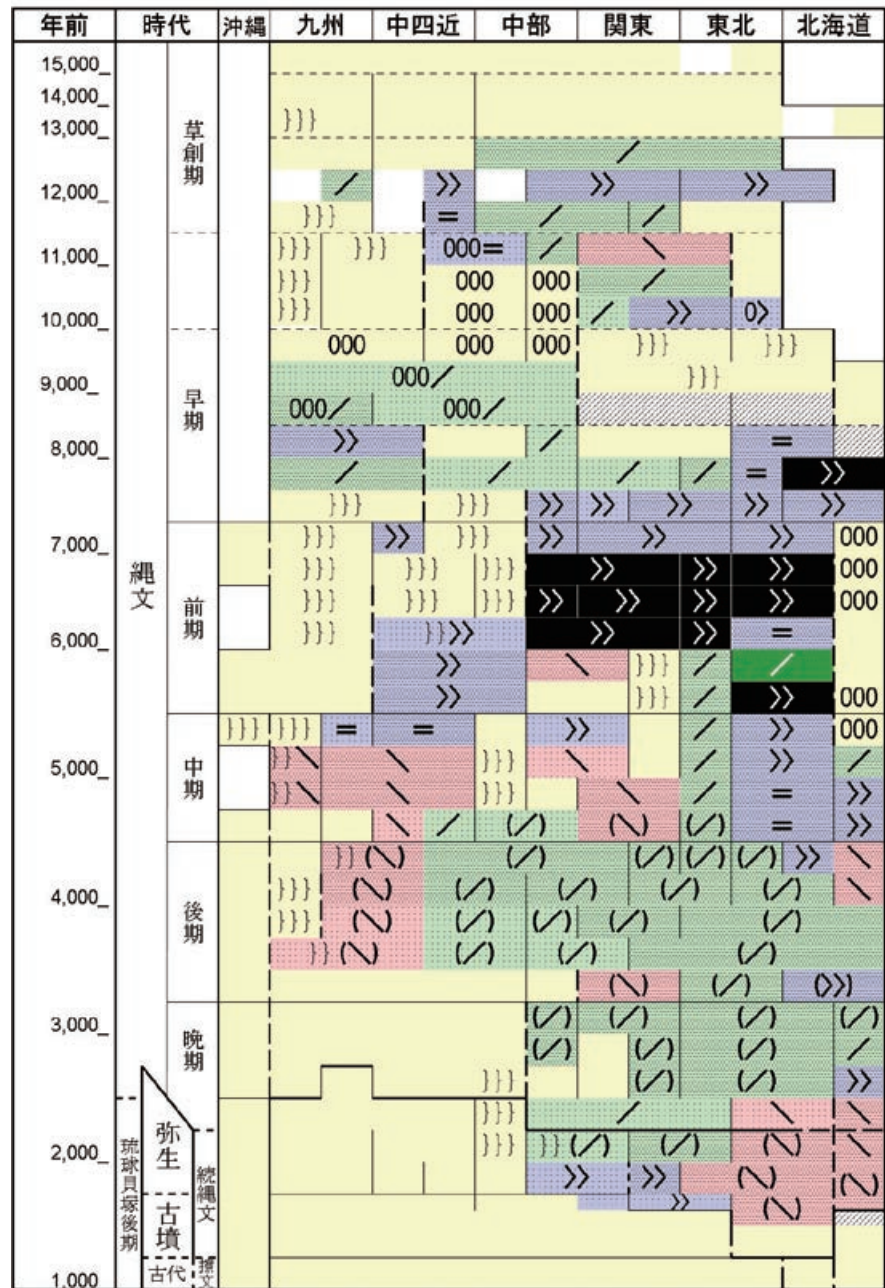
早期前半に一度途絶えかけますが、北日本を起点に復活し、羽状縄紋を発達させながら広がります。

前期に最も多彩な原体・施紋手法が使われます。

中期には奄美諸島にまで発見されますが、後期末から西日本で使われなくなります。

弥生時代まで縄紋を使い続けた東日本からも、古墳時代に入ると消えていきます。

縄紋の観察をすると、一段の縄がLである時期・地域と、Rである時期・地域があることが知られ



日本列島先史土器の縄紋の変遷

ています。見た目の真似ではない撚りの動作の伝統が浮かび上がっているかもしれません。

日本列島で最後まで縄紋が残ったのは続縄文文化圏の東北北部～北海道です。ほくだい北大式と呼ばれるその土器も、6世紀頃に縄紋を失い、時を経ずして、北海道に農耕やカマドが伝わりました。

#### 4-2 縄文時代草創期・早期の縄紋

八ヶ上遺跡<sup>はけうえ</sup>で1片、日本で縄紋が始まった頃の土器が出土しています。滑川町打越遺跡<sup>なめかわうちこし</sup>から、この頃の土器がまとまって出土しています。刺突列を模倣して押圧縄紋が生じ、縄紋を密に押圧する代りに回転の手法が生じたという説があります。



縄文草創期の  
押圧縄紋土器  
(八ヶ上遺跡)



縄文草創期の土器 (滑川町打越遺跡)  
上列：刺突列 (爪形紋) 下列：押圧縄紋

草創期の終わり頃 (早期初めと呼ぶ研究者も多い)、撚糸紋のみで器面を覆うようになります。



撚糸紋系土器 (北通遺跡)<sup>きたどおり</sup>

早期終り頃<sup>しちぬまべ</sup>の下沼部式に絡条体圧痕が流行ります。



下沼部式の絡条体圧痕紋 (氷川前遺跡)

次の段階の打越式<sup>おっこし</sup>では回転縄紋が再出現しますが、主役はナデ調整の土器で、縄紋は少数派です。



打越式に伴う羽状縄文 (打越遺跡)<sup>おっこし</sup>

#### 4-3 縄文時代前期の縄紋

前期になると羽状縄紋が主役に躍り出ます。その初頭の花積下層式<sup>はなづみ</sup>では、側面圧痕による文様も流行ります。一方で、貝殻紋の伝統が、貝殻背圧痕紋という形で残ります。



花積下層式の撚糸側面圧痕 (打越遺跡)



花積下層式の結束羽状縄文 (打越遺跡)



花積下層式の貝殻背圧痕紋 (打越遺跡)

前期前葉の<sup>せきやま</sup>関山式は多くの段階に分けられます。初期には閉端環の回転（ループ紋）が流行し、複雑な結節縄紋も多用されます。どちらも曲線を大量生産する縄紋です。



関山式初期の短足環羽状縄紋（打越遺跡）  
よく見ると、左右逆向きの環を交互に施紋しています



関山式初期の結節縄紋（打越遺跡）

関山Ⅰ式は、初期に盛行した縄が残り、新たに出現する原体も有り、史上最も多彩な縄紋が認められる土器型式です。最も多いのは、閉端環付の単節（0段3条が普通）および、閉端環複列と単節の交互配置です。単節は同じ帯の中で2種を用い、縦羽状の構成を取っています。

合燃、附加条などの異条縄紋も少量ながら多種出現し、関山Ⅱ式に向けて少しずつ増加します。



関山Ⅰ式環列羽状縄紋（打越遺跡）



関山Ⅰ式の菱状縄紋（打越遺跡）  
上段と下段を組み合わせて菱形となるようになっています

関山Ⅱ式は、組紐紋の出現で幕が開きます。組紐及び組縄は、次第にその比率を増し、単節から主役の座を奪います。組紐紋は、微視的には究極の縦位羽状紋様といわれますが、遠目には、縄紋帯も条も不明瞭な単調な装飾です。带状の構成を取らない斜縄紋も目立つようになります。



関山Ⅱ式の組紐紋（打越遺跡）



関山Ⅱ式の単節斜縄紋（打越遺跡）

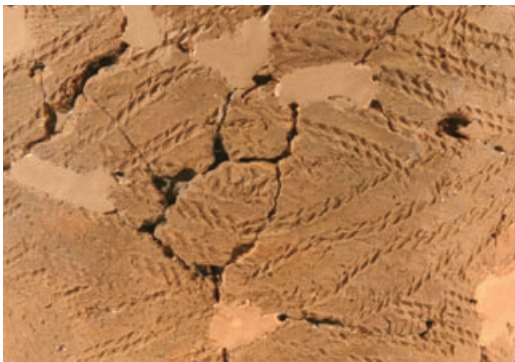
前期中葉の黒浜式<sup>くろはま</sup>は、目が覚めたように組原体を廃し、単節を中心に、附加条や無節も各1～2割と、他の時期には無いほど多用します。斜縄紋が過半ですが、羽状も半数近く、特に菱形配置を多用することが特徴です。附加条や無節は条の線が目立つ縄紋であり、菱形のような図形を表現するのに向いています。



黒浜式の単節菱状縄紋（水子貝塚）



黒浜式の格子目状附加条縄紋（水子貝塚）



黒浜式の菱状撚糸紋（水子貝塚）



黒浜式の無節縄紋（水子貝塚）

前期後半の諸磯式<sup>もろいそ</sup>では、単節斜縄紋（RL）が圧倒的となり、直前段3条、末端結節の原体が目立ちます。一時的に磨消縄紋も見られます。



諸磯a式の末端結節単節縄紋（水子貝塚）



諸磯a式の磨消縄紋（水子貝塚）

#### 4-4 縄文時代中期の縄紋

前期末～中期前葉には、関西の影響による横位羽状縄紋や、東北の影響による縦位羽状縄紋などが流行ります。末端結節も区画に利用されます。



中期初頭の結節区画縄紋（南通遺跡）

中期中葉の勝坂式<sup>かつさか</sup>は、縄紋を持たない土器が大多数です。少数に付けられる縄紋は斜転縦条の施紋が特徴的で、縦位撚糸紋も見られます。



勝坂式の斜転縦条縄紋（谷津遺跡）

中期後半の加曾利 E 式は、東北の影響で縦位施紋の縄紋が普及します。勝坂式以来の伝統で撚糸紋も目立ちます。文様が平板化していく過程で、磨消縄紋が登場し、充填縄紋に移っていきます。



加曾利 E II 式の磨消縄紋 (栗谷ツ遺跡)



加曾利 E III 式の充填縄紋 (貝塚山遺跡)

#### 4-5 縄文時代後期・晩期の縄紋

後期初頭の称名寺式は、縄紋施紋部分と磨き部分を狭い幅で交互に配置した多重の渦文が特徴的で、画線内縄紋の一つの頂点といえます。



称名寺式の充填縄紋 (貝塚山遺跡)

後期前葉以降、晩期前葉まで、無紋部を丁寧に磨き、コントラストが鮮やかな文様が中心です。晩期中葉以降は縄紋の使用が衰えます。



後期前葉堀之内2式 (本目遺跡)

#### 4-6 弥生時代・古墳時代初期の縄紋

弥生時代前期～中期前半に磨消縄紋が復活しますが、この地域で出土していません。中期後葉の宮ノ台式に縄紋や結節回転紋が見られます。



宮ノ台式の縄紋 (南通遺跡)

後期後半の弥生町式には、結節を区画に利用した羽状縄紋が盛行します。糸紋とでも呼びたいほどの細かさです。弥生後期末の前野町式は網目状撚糸紋が目立つようになります。



弥生町式の結節紋区画羽状縄紋 (南通遺跡)



弥生町式の末端結節羽状縄紋 (北通遺跡)



前野町式の網目状撚糸紋 (北通遺跡)



## 5 縄を解いた人々

### 5-1 命名：縄紋土器

E.S. モース (1838-1925) は動物学者で、明治10年に調査した大森貝塚の出土土器を“cord marked pottery”と呼びました。当初は「索紋」と訳されましたが、後に植物学者になる白井光太郎 (1863-1932) が「縄紋」という訳語を広めました。

初出	名称	使用者 (訳者)
1879	cord marked pottery	E.S.モース
1879	索紋	矢田部良吉
1886	貝塚土器	坪井正五郎
1886	縄紋土器	白井光太郎
1888	縄文土器	神田孝平
この間「縄紋土器」が優勢		
1895	石器時代土器	坪井正五郎
この間「貝塚土器」「石器時代土器」が優勢		
1917	アイヌ式土器	鳥居龍蔵
一般に「アイヌ式土器」が普及		
1920	縄文式土器	浜田耕作
1920	貝塚式土器	島田貞彦
1922	縄紋式土器	浜田耕作
専門家は「縄紋土器」または「縄文式土器」のいずれかを使用するようになる		

縄紋土器の名称変遷 (江坂 1952 から作成)

史学者・考古学者の三宅米吉 (1860-1929) は、縄紋を布や席の圧痕と考えました。

人類学者の坪井正五郎 (1863-1913) も席紋と呼び、筋 (條 = 条) とポツポツ (点 = 節) の密度を調べました。

示へて何る孔向列席  
すて何條筋のきとと紋  
席何の筋の隙に並の  
紋何の筋の隙に並の  
の粗と何の筋の隙に  
密と何の筋の隙に  
を唱を何の筋の隙に

「席紋計」

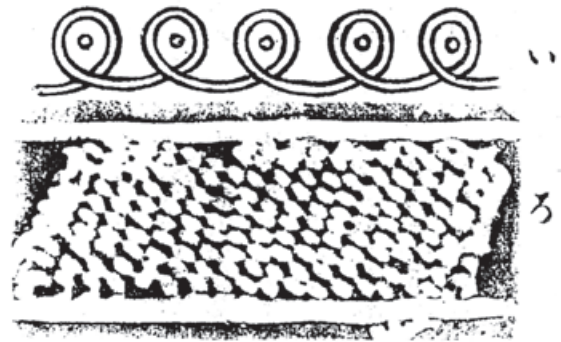
五分 (15mm)

坪井論文に基づく「席紋計」

西欧の考古学を伝えた浜田耕作 (1881-1938) は、ヨーロッパ等の "cord ornament pottery" (縄目文土器) と縄紋土器の関係について考えました。

### 5-2 挑戦：席紋原体

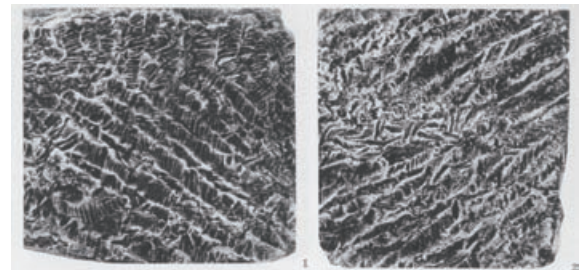
中山平次郎 (1871-1956) は病理学者で、余暇に弥生文化を研究しました。縄紋土器にも関心を持ち、平面的な原体 (織物) の復元を試みました。



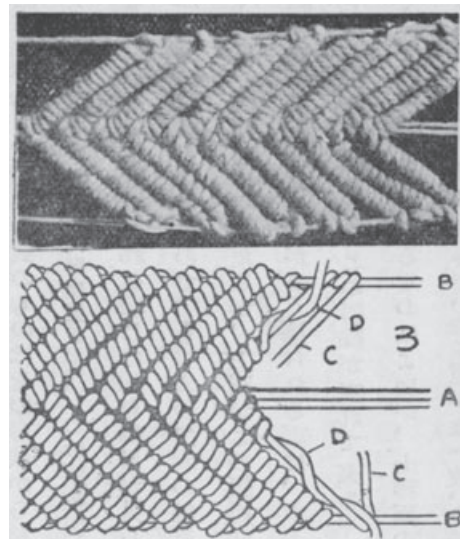
中山の原体復元案

(い) 縦糸への横糸の絡め方 (ろ) 復元圧痕

杉山寿栄男 (1884-1946) は工芸図案家で、原始文化やアイヌ文化も研究しました。縄紋は製作中の土器を包んだ布・席の痕と考え『日本原始織維工芸史』に復元案を示しました。型取りした縄紋の実例を多数掲載した同書には、打越遺跡出土土器7片、水子貝塚出土土器4片も掲載されています。



杉山による水子貝塚出土土器の縄紋



杉山が考えた羽状縄紋原体

### 5-3 解明：縄紋原体

1930年（昭和5）、土器の編年研究を進めていた山内清男（1902-1970）が「斜行縄紋に関する二、三の観察」という論文を発表しました。まだ回転の手法には気付いていませんが、綿密な観察により、縄紋は長方形の施紋単位に分けられ、条は斜めに走ることを確かめました。"無節","単節","異条"などの用語はこの論文に発して今も使われています。観察の確かさと命名の適切を示します。

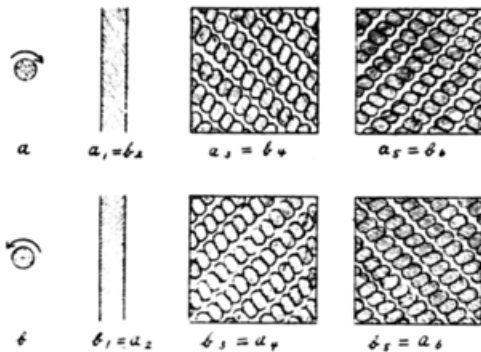


Fig. 2. 単節斜縄後の根本的二種及び押捺方向  
a 右捻り b 左捻り 1 繊維束外面 2 同壓痕  
3 横位 4 同(壓痕) 5 縦位 6 同(壓痕)

『斜行縄紋に関する二、三の観察』挿図

1931年（昭和6）5月のある日、縄紋の観察に疲れ、たまたま手近にあった医療用綿棒を粘土に転がした山内は驚きます。綿棒のらせんが斜線として写し取られている！これが、斜行縄紋が撚紐の回転圧痕と気付いた瞬間と伝えられます。ただちに様々な撚紐の試作と圧痕の観察を繰り返して、多種多様な縄紋原体を明らかにしました。しかし、未完成な研究の発表を保留し、知人や弟子に教えるにとどめました。戦後、出版物や大学講義で研究成果の概要を解説し、1961年（昭和36）に研究成果を博士論文としてまとめ、学位を得ました。しかし、その出版がかなわないまま世を去りました。

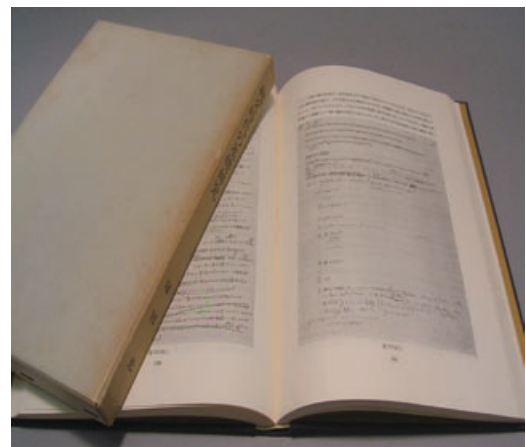


『日本先史土器の縄紋』

### 5-4 展開：縄紋研究

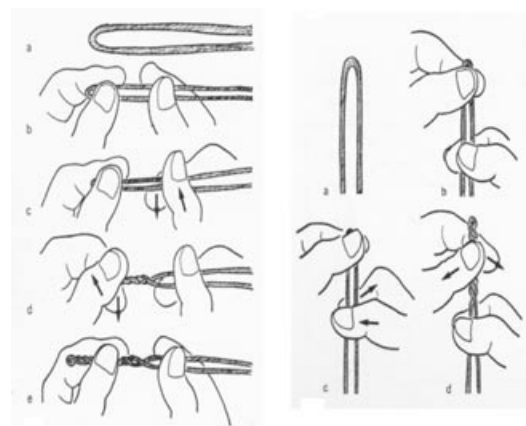
山内の研究成果は、講義ノートの書写などによって秘かに広まりました。しかし、誤写などにより不正確であり、引用文献にもできないため、利用困難でした。1979年（昭和54）、ついに『日本先史土器の縄紋』が出版されました。写真図版が主体の高額な専門書でしたが、ただちに売り切れ、学界の共有財産となりました。

その出版に力を尽くしたのが塚田光（1934-1981）です。塚田は印刷を本業とする縄紋文化の研究者で、打越遺跡の発掘調査（1967）にも参加しました。



『縄文時代の基礎研究』

佐原真（1932-2002）は、中学生のころから山内の指導を受け、縄紋土器の研究者として出発しました。『縄文土器大成』では山内論文のエッセンスをわかりやすく解説し、初学者を導きました。また、世界各地の土器の縄紋も紹介しました。



佐原が図解した縄紋の撚り方  
(右利き用。左：R撚り、右：L撚り)

『日本先史土器の縄紋』は縄紋土器を学ぶものの必読文献となりました。そして、それを学んだ後進により新たな縄紋原体や擬縄紋がいくつも発見されました。それらも皆、山内が開いた領域を転がっているのです。

## 展示資料一覧

資料（所蔵者）

### 1. 縄・らせん・うず

- わら縄・井戸縄（難波田城資料館）
- 羽根尾貝塚縄紐・縄素材（小田原市教育委員会）
- 横綱写真（個人蔵）
- 各種らせん形・渦巻形物品（当館）

### 2. 縄紋いろいろ

- 各種縄紋原体標本（当館）
- 各種縄紋原体土器片（当館）

### 3. 縄紋の、ようなもの

- 各種装飾標本（当館）
- 各種装飾土器片・瓦（当館）

### 4. 縄紋の始まりと終り

- 滑川打越遺跡縄文草創期土器（滑川町教育委員会）
- 八ヶ上遺跡縄文草創期・中期土器（当館）

栗谷ツ遺跡縄文早期・中期土器（当館）

北通遺跡縄文早期土器（当館）

水川前遺跡縄文早期土器（富士見市教育委員会）

打越遺跡縄文早期・前期・中期土器（当館）

水子貝塚縄文前期土器（当館）

殿山遺跡縄文前期土器（富士見市教育委員会）

羽沢遺跡縄文中期土器（富士見市教育委員会、当館）

貝塚山遺跡縄文中・後期土器（当館）

本目遺跡縄文後期土器（当館）

正網遺跡縄文後期・晩期土器（当館）

南通遺跡弥生中期・後期土器（当館）

北通遺跡弥生後期土器（当館）

### 5. 縄を解いた人々

平面的縄紋原体復元案模型（当館）

『日本先史土器の縄紋』（個人蔵）

『縄文土器大成』（個人蔵）

## 参考文献

- 1886.04 白井光太郎「石鏃考」人類学雑誌,3
- 1894.05 坪井正五郎「西ヶ原貝塚探求報告 其六」人類学雑誌,98
- 1928.08 中山平次郎「貝塚土器の席紋と其類似紋」考古学雑誌 8-12
- 1930.05 山内清男「斜行縄紋に関する二、三の観察」史前学雑誌 2-3
- 1932.06 山内清男「旋毛」ドルメン,2
- 1928.06 杉山寿栄男『日本原始工芸概説』
- 1942.12 杉山寿栄男『日本原始繊維工芸史 原始篇』
- 1957.07 江坂輝彌『考古学ノート 2 先史文化 2 縄文文化』日本評論新社
- 1972.09 佐原真「平瓦桶巻作り」考古学雑誌,58-2
- 1978.03 庄野靖寿「紐縄文の観察と表記法について」『貝崎貝塚第3次発掘調査報告書』大宮市文化財調査報告,12
- 1975.03 芹沢長介『陶磁大系 1 縄文』平凡社
- 1979.11 山内清男『日本先史土器の縄紋』先史考古学会（編集：塚田光）
- 1980.12 塚田光「山内清男著『日本先史土器の縄紋』の新刊紹介（芹沢長介）を読んで」考古学雑誌,66-3
- 1981.08 黒坂慎二「第2群土器について」『大古里遺跡発掘調査報告書』浦和市遺跡調査会発掘調査報告,19
- 1981.10 佐原真「縄文施文法入門」『縄文土器大成 3 後期』講談社
- 1982.05 佐原真「世界の中の縄文土器」『縄文土器大成 5 続縄紋』講談社
- 1984.03 黒坂慎二ほか『深作東部遺跡群』大宮市遺跡調査会報告,10
- 1985.12 R.Soper「Roulette decoration on African pottery」African Archaeological Review,3
- 1986.11 下村克彦「施文原体の変遷－羽状縄文系土器－」季刊考古学,17
- 1993.04 大村裕「ある学史の一断面－『日本先史の土器の縄紋』の刊行と塚田光－」下総考古学,13
- 1994.09 大村裕「『縄紋』と『縄文』－山内清男はなぜ『縄紋』にこだわったのか？－」考古学研究,41-2
- 1996.08 中村五郎ほか『画龍点睛－山内清男没後25年記念論集－』山内清男没後25年記念論集刊行会
- 2000.03 藤井義範「縄紋原体の素材に関する実験考古学的考察」筑波大学先史学・考古学研究,11
- 2005.03 ジェームス・D・ワトソン、アンドリュー・ベリー『DNA』講談社ブルーバックス
- 2006.03 伊藤慎二「ロシア極東の新石器文化と北海道」『東アジアにおける新石器文化と日本』国学院大学 COE
- 2007.09 熊谷气象台「平成19年9月台風第9号に関する埼玉県気象速報」<http://www.tokyo-jma.go.jp/home/kumagaya/>
- 2007 大日本除虫菊株式会社「工場長に聞く 詳細な話コース」<http://www.kincho.co.jp/factory/listen/listen03.html>

## 「縄紋」と「縄文」について

模様の種類を表すモンは普通は「〇〇紋」として国語辞典に採録されています。「〇〇文」で模様を示す言葉は少なく、古語をのぞけば考古学用語だらけ（縄文・直弧文・忍冬文など）です。つまり、現代日本語では模様の意のモンは「紋」を用いるのが一般的です。模様の意味の「文」の元となる「文様」というのは、そもそも日常用語ではありません。考古資料を市民に口頭で説明するときは、モンヨウを避けてモヨウとするのが普通です。

明治～大正期の考古学文献を散見すると、現在ならば「文様」と書くような場面で「模様」と書くことが多く、モンヨウの場合は「紋様」が普通です。その中で、帝室博物館系の研究者が「文様」・「〇〇文」を多用しました。再度辞書を引くと「文様」の説明に「有職文様の略」と記されています。有職文様とは平安時代以来の由緒ある模様のことです。帝室博物館は古式ゆかしい表記として「文様」を使い始め、さらには模様の名称も「〇〇文様」の省略だから「〇〇文」だとしたのでしょうか。

この結果、考古学界では「文」が一般化しました。これはある意味、一般社会と遊離した専門家独自の用法といえます。亡くなった佐原真氏は、一般社会の用字に合わせて「紋」で統一すべしと説いていました。しかしモン題はそれだけですみません。

「紋」「文」問題について3つの立場があります。

- ・糸へん派 縄紋 紋様 過去主流、現在少数
- ・ブンブン派 縄文 文様 現在の主流
- ・使い分け派 縄紋 文様 土器研究者の一部

「紋」と「文」を使い分けるのは、土器の模様のうちたんなるパターンである「縄紋」と図形である「文様」を区別することで、土器の模様をよりよく理解できるからです。これは土器文様と縄紋の研究を確立した山内清男氏以来の用法です。

水子貝塚資料館の展示においては、これまで「縄文」を採用してきました。

山内氏の研究に基づく今回の企画展は、氏の研究を尊重するとともに、土器の模様における縄紋の意義を示すために、模様を指す場合に限り「縄紋」の表記を用いました。しかし、時代名としては広く親しまれている「縄文」を用いました。

平成 19 年度企画展図録

## 縄紋多種彩々

—土器を飾るパターン—

発行日 平成 20 年 1 月 6 日

編集・発行 富士見市立水子貝塚資料館

〒354-0011

埼玉県富士見市大字水子 2003 番地 1

TEL 049-251-9686

FAX 049-255-5596

デザイン・印刷 株式会社ミュゼ